麗澤中学・高等学校
Reitaku Junior and Senior High School

News Release

報道関係者各位

2026 年 11 月 20 日

小説『風起つ教室』から考えるこれからの教育と教師の役割
「しまじろう」の生みの親・水野次郎氏と高校生が教育の未来を語る
2026 年 11 月 26 日（木）麗澤中学・高等学校にて

麗澤中学・高等学校（千葉県柏市/校長：櫻井　譲）は、学園小説『風起つ教室』の著者である水野次郎（みずの　じろう）氏をお招きして、高校 1 年生の「教育ゼミ」に所属する生徒を対象とした特別講話を開催します。

今回の講話では、生徒たちが事前に『風起つ教室』を読み、自ら考えた問いをもとに、著者と直接対話する形式で進めます。 作品に描かれた教育現場の姿や、教師と生徒の関わり方について意見を交わしながら、これからの教育の在り方や教師に求められる役割について考えを深めます。

麗澤高等学校では、独自の探究学習プログラムとして「探究ゼミ」を開講しています。高校 1 年生の後期から「総合的な探究の時間」において、生徒が自らの興味・関心に応じたゼミに所属し、それぞれのテーマについて探究活動を行っています。

その中の一つである「教育ゼミ」では、将来教員になることを志す生徒たちが、幼稚園や小学校、中学校での実習などを通じて、教育現場への理解を深めるとともに、教師として必要な資質や能力を育んでいます。

『風起つ教室』は、教師が生徒と向き合う姿勢や日々の言葉かけなど、学校現場でのリアルなやり取りが描かれた作品です。特に、物語に登場する高校生が探究活動に取り組む姿は、探究学習を始めたばかりの生徒たちにとって、自らの学びと重ね合わせながら考えることのできる内容となっています。

水野次郎氏は、幼児向け教育雑誌の編集長や高等学校の校長などを歴任し、幼児教育から高等学校教育まで幅広い経験を持つ人物です。今回の講話では、『風起つ教室』の執筆に込めた思いや、これまでの教育実践を通じて大切にしてきたことなどについてお話しいただきます。

また、生徒たちが作品を読んで感じた疑問や考えを著者に直接投げかけることで、単に話を聞くだけではなく、対話を通じて教育の本質や学ぶことの意味について理解を深める機会とします。

今回の特別講話では、次の 3 点を目的としています。

①『風起つ教室』を通して、教員としての在り方や教育の本質について理解を深める
② 著者との対話を通して、自らの考えを言葉にし、多様な視点に触れる機会とする
③ 将来教員を志す生徒が、教育に携わる者としての使命感や責任について考える契機とする

教育ゼミを担当する秋元誠道（あきもと　しんじ）教諭は、「本を読むことによって得られる学びは大きいですが、著者本人と直接対話できる機会はさらに貴重です。生徒たちには、水野先生との対話を通して教育への理解を深めるとともに、自らの将来や理想の教師像について考えるきっかけにしてほしいと願っています。」とコメントしています。

【講師プロフィール】
◆名前：水野 次郎（みずの じろう）
◆経歴：経歴：慶應義塾大学文学部卒業後、
福武書店（現ベネッセコーポレーション）入社。
幼児雑誌『こどもちゃれんじ』初代編集長を務め、
「しまじろう」の生みの親として知られる。
千葉県立高等学校の民間人校長、
私立中高一貫校校長などを歴任。

【高校 1 年生教養講話】
◆日時：2026 年 11 月 26 日（木）15:20-16:30
◆対象：麗澤高校 1 年「教育ゼミ」
◆場所：麗澤中学・高等学校メディアセンター

